

平成24年度北海道大学情報基盤センター共同研究成果報告書

1. 研究領域番号 A6 教育情報メディア
2. 研究課題名 高等教育におけるマンガの活用と分析・評価
3. 研究期間 平成24年4月23日 ~ 平成25年3月31日

4. 研究代表者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
牧野 圭一	京都造形芸術大学 芸術学部	教授	

5. 研究分担者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
中村 純	広島大学 情報メディア教育研究センター	教授	
隅谷 孝洋	広島大学 情報メディア教育研究センター	准教授	
岡本 健	京都文教大学 総合社会学部	講師	
岡部 成玄	北海道大学 情報基盤センター	特任教授	
布施 泉	北海道大学 情報基盤センター	教授	

6. 共同研究の成果

教育現場におけるマンガの活用が進んでいる。いわゆる学習マンガを利用するという形態だけではなく、マンガを用いた思考法、発想法といった人間の心理・認知の分野からも、マンガを学習に活かすための実践が進められている。本研究の目的は、学習課程で様々な用いられるマンガの活用手法を整理し、分析・評価するとともに、教育に効果的に用いることのできるマンガの要件をまとめ、そのためのマンガ教材データベースについて検討することにある。また、マンガを用いた教育実践プロセスを具体的に提案するとともに、大学の教育全般における教育の質的改善のためのマンガの活用についての研究交流を図ることを目的とする。

本共同研究の成果として、下記が挙げられる。

【マンガを用いた教育実践プロセスの具体的な提案】

- 北海道大学の前期の正規授業(一般教育演習)で、履修者23名に対し、具体的にマンガを用いた教育実践を行った。授業の中で、一コママンガを通じたコミュニケーション、発想法を取り上げ、京都造形芸術大学の学生とマンガを介した意見交換を行ったところ、履修者から大変好評であった。通常、なじみがあまりない一コママンガに独自の短歌を付ける、短歌からマンガを連想する等、様々な実践を行い、学習者の発想法を深化させる試みを行った。
- マンガの分析を行うために、北海道湧別町で過去に行われたオホーツク国際マンガ大賞の入賞作品を取り上げた。1の学習者が、一コママンガの分析を行った。一つのテーマに2グループずつが取り組んだところ、同じ対象を分析しているにも関わらず、情報の受け手の認識が異なることに学習者が気づいた。当然のことではあるが、実際の経験として、受け手の認識の違いを感じる機会は少ないと思われ、情報教育の一例としても取り上げられる事例と思われる。

(研究成果のつづき)

3. コママンガや4コママンガを学習者の状況を知るためのプローブとして用いる実践を行っている。情報教育において、学習者が選択したマンガについて、問題点を記載させ、当該学習者の問題意識を探る実践である。当該実践の成果は、以下で発表した。

マンガを活用した意識調査を前提とした情報倫理教育プログラムの開発, 大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会 研究集会講演論文集, G2-4, 2012.

布施泉, 岡部成玄, 牧野圭一

【マンガ教材データベース作成のためのマンガ蓄積】

3. 北大マンガ教室・研究会の開催

本研究では、マンガ家を含めた研究者と教育現場にいる研究者・教育者との研究交流を進める。その際は、高等教育のみならず、初等・中等教育における教育関係者を含め、マンガの教育利用について、広く知見を公開し、展開することが重要と考え、「北大マンガ教室」とそれに繋がる研究会を下記日程で開催した。

平成 25 年 3 月 10 日 (日) 10 時半 ~ 14 時半 (マンガ教室)
15 時 ~ 17 時 (研究会)

「発想を磨く」をコンセプトに一般参加者を募ったところ、38 名の参加者を得た。うまく描くのではなく、その人らしい発想とその内容を伝えることの重要性を、参加者自らが 2 コマのマンガを描くことで学んだ。参加者同士のコラボ作品が生まれるなど、目的は十分に達成された。また、マンガ教室閉会后、高校教員と大学教員におけるマンガを授業の中に取り入れる試みと可能性について議論した。

なお、参加者が描いたマンガ作品は、マンガ教材データベース用の素材としての活用を今後検討している。